

がん検診を受けましょう

厚生労働省人口動態統計によると、2020年死因の第1位はがんです。そして、心疾患(15.0%)、老衰(9.6%)、脳血管障害(7.5%)で、新型コロナウイルス感染症による死亡は3466人(0.3%)でした。全死亡者(37万8385人)の27.6%にあたり、3.6人に1人はがんで亡くなっています。男性の1位肺がん、2位胃がん、3位大腸がんで、女性の1位は大腸がん、2位は肺がん、3位膵臓がんです。

がん検診の目的は、がんを早期に発見して、根治(治癒の状態)を目指すことです。ところが、コロナ禍により検診の受診者数が激減してしまいました。2020年の5つのがん検診(胃、肺、大腸、乳、子宮頸)受診者は2019年の567万769人から172万8305人減少し、30.5%の大幅減少でした(日本対がん協会)。がん発見率より計算すると、約2100のがんが未発見の可能性があります。2021年上半期も2020年よりは22%増えましたが、2019年の87%にとどまっています。

医療費の増大を招かずにご自身を守るのは、予防と検診を推し進めることが一番といわれています。医療費の問題だけではなく、早期癌に比べて、進行癌の治療は大変です。医療機関・健診会場は、感染防止ガイドライン等に基づき感染症対策を行っています。年に1度の健康診断、がん検診は是非受診しましょう。